

**良質・良食味米安定生産・出荷のための栽培技術**  
—産米のタンパク質含有率低下、売れる米づくりを目指して—

## **Ⅲ 令和7年の水稲(直播栽培)の取組について**

### **1 北海道における水稲直播栽培の取組状況**

### **2 令和7年の水稲直播栽培について**

Ⅲ

執筆：北海道農政部生産振興局 技術普及課 農業研究本部駐在  
主任普及指導員 石岡 康彦（農業革新支援専門員）



# III

## 令和7年の水稲(直播栽培)の取組について

### 1 北海道における水稲直播栽培の取組状況

北海道の水稲直播栽培には、湛水直播（は種前に湛水を伴うは種様式）と乾田直播（は種前に湛水を伴わないは種様式）の2つの栽培方法がある。平成以降、水稲栽培省力化に向けた直播栽培への関心が高まり、栽培面積が増加してきた。特に、平成16年に道総研が開発した「落水出芽法を用いた水稲直播栽培の安定多収技術」は、湛水直播への取り組みを後押しした。また、乾田直播では、種子予措を省略する乾籾は種方式が広まり南空知を中心に面積が拡大している。

栽培面積は平成24年に1,000haを超え、1,238haに達した。その後、直播栽培に適した「ほしまる」の開発や、直播栽培でも高い収量性を示す「大地の星」の普及により収量は安定化してきた。近年は、農業者からの水稲省力化栽培のニーズがより一層高まり、低温苗立性に優れ、食味も向上した「えみまる」の普及や飼料用米栽培の拡大が進み、令和7年の作付面積は8,306ha（昨年比2,028ha増加）となっている（図1）。

令和7年の振興局別の栽培状況を見ると、空知管内が湛水・乾田直播ともに作付面積も多く、全道の約7割を占めている。湛水直播では空知管内に次いで上川管内と道南（渡島、檜山）地域が多い（表1）。湛水直播のは種方式は、専用は種機による条播や点播のほか、ドローンやブームタブラーによる散播など多様な方式で取り組まれている。乾田直播は空知管内の取り組みが全道を牽引しており、田畑輪換の1品目として注目されている。特に檜山管内では、乾田直播の作付面積は368ha（昨年131ha）で大幅に増加している。は種機は、畑作との兼用が可能な施肥付きは種機が利用されている。

栽培品種は、主食用として「えみまる」、飼料用米として「そらゆたか」を主体に栽培されている。

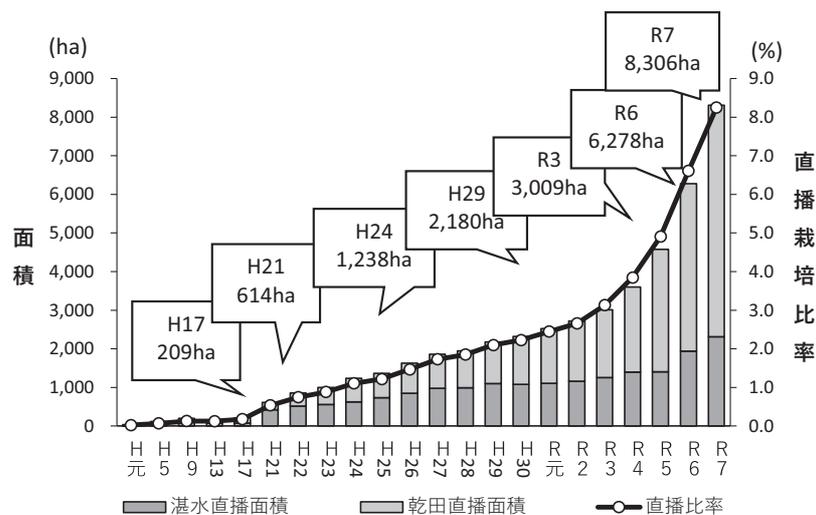


図1 水稲直播栽培面積の推移（道農政部技術普及課調べ）

表1 令和7年度の振興局別水稲直播栽培面積（道農政部技術普及課調べ）（ha）

項目	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	全道
湛水直播	1,313	38	21	27	0	104	114	656	40	2,313
乾田直播	4,340	519	3	106	19	279	368	322	37	5,993
合計	5,653	557	24	133	19	383	482	978	77	8,306

※四捨五入の関係で各項目の計と全道計が一致しない。

## 2 令和7年の水稲直播栽培について

### (1) 現地の生育経過

令和7年の積雪量は平年より少ない傾向であった。融雪期は地域差が大きかったものの概ね平年並であった。しかし、4月中旬からの断続的な降雨により耕起作業は平年より遅れた。種作業は、乾田直播、湛水直播ともに平年より遅い5月上旬～5月中旬頃に行われた。出芽は適度な降雨により順調であったが、5月下旬～6月上旬の低温により出芽から1葉期の生育は時間を要した。

6月2半旬頃から高温が続き、 $m^2$ 当たり苗立本数は概ね目標本数を確保した。その後も断続的に高温が続き、生育は順調に進んだ。

出穂期は平年並～やや早く、登熟も早まったが、8月中旬以降の降雨により各地で倒伏が発生した。

9月も高温で推移したため登熟は良好に進み、成熟期は平年より早い9月上旬～中旬となった。収穫作業は9月4半旬から開始され、収量は概ね平年並であったが。一方で、倒伏したほ場では登熟歩合は低下し、未熟粒の発生による品質低下が見られた。

### (2) 農業試験場の生育経過

中央農試では、5月下旬から6月上旬の低温と強風により生育は緩慢で初期茎数は平年より少なかった。一方、上川農試では5月下旬はやや低温であったものの、日照時間は平年を上回り生育は概ね順調であった。そのため、初期茎数は平年並以上を確保した。両農試とも6月2半旬以降の高温により出穂・成熟期は平年より早くなった。

稈長は中央農試でやや短く、上川農試はやや長かった。穂長は中央農試で短くなり、上川農試は平年並であった。総粒数は中央農試で2.5万粒/ $m^2$ 程度、上川農試は4.2万/ $m^2$ 程度であった（表2、3）。

表2 道総研中央農試の湛水直播栽培試験結果

品種名「えみまる」

年度	苗立率 (%)	初期 茎数 (本/㎡)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	一穂 粒数 (粒)	総粒数 (千粒/㎡)
令和元年	94	1,141	8月1日	9月18日	69	15.5	867	43.4	37.6
令和2年	95	859	8月2日	9月16日	63	14.0	906	43.5	39.4
令和3年	73	1,130	7月25日	9月8日	75	17.5	801	51.4	41.2
令和4年	93	754	8月2日	9月18日	81	15.8	865	48.5	42.0
令和5年	92	543	7月29日	9月7日	73	16.4	729	50.0	36.5
令和6年	58	473	7月31日	9月10日	71	16.9	721	49.9	36.0
令和7年	82	529	7月25日	9月7日	70	14.4	623	41.6	25.9
平年(R元~6)	84	817	7月30日	9月12日	72	16.0	815	47.8	38.8

道総研中央農業試験場水稲優良品種決定基本調査から抜粋。

栽培方法：落水出芽法による湛水直播栽培。は種はシードテープ（50粒/m・条間20cm）

### (3) 主産地の生育経過

苗立本数は妹背牛町（湛水直播）で平年よりやや少なく、岩見沢市（乾田直播）は平年並だった。初期茎数は妹背牛町で平年比128%、岩見沢市では76%となった。出穂期は両産地とも平年より早かった。

収量構成要素および決定要素の状況について、一穂粒数・穂数は両産地とも平年より少なく、㎡当たり総粒数も少なかった。不稔歩合は両産地とも20%以下で収量を低下させる程度ではなかった（表3、4）。稔実粒数が減少した分、登熟歩合および千粒重はやや向上したが平年作を上回る程ではないと考えられた。

また、品質は倒伏による整粒不足や着色粒の発生、カメムシ類の加害による斑点米の発生が散見されたが、概ね平年並を確保した。

表3 妹背牛町における湛水直播栽培結果（妹背牛町水稲直播研究会提供）

年度	苗立 本数 (本/㎡)	初期 茎数 (本/㎡)	出穂期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	一穂 粒数 (粒)	総粒数 (千粒/㎡)	不稔 歩合 (%)
令和7年	222	740	7月23日	65	15.1	811	42.6	34.5	7.0
平年	231	579	7月28日	66	15.6	853	43.0	36.4	7.1

妹背牛町水稲直播研究会、JA北いぶき、妹背牛町が行っている調査データを用いた。

令和7年：「えみまる」

平年：平成29～令和3年の平均、平成29～令和元年は「ほしまる」「えみまる」、令和2年以降は「えみまる」のデータを基に作成。苗立本数：6月6～13日、初期茎数：6月25～27日の調査。

表4 岩見沢市における乾田直播栽培結果（JAいわみざわ水稲直まき研究会提供）

年度	苗立 本数 (本/㎡)	初期 茎数 (本/㎡)	出穂期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	一穂 粒数 (粒)	総粒数 (千粒/㎡)	不稔 歩合 (%)
令和7年	238	772	(7月25日)	77	17.6	886	(45.8)	(40.6)	(15.3)
平年	225	1,010	(8月8日)	72	16.0	893	48.3	42.4	8.8

JAいわみざわ水稲直まき研究会、JAいわみざわが行っている定点調査・各種試験調査データを用いた。

令和7年：「えみまる」。()は未調査のため参考値として水稲優良品種決定現地調査データを用いた。

平年：平成29～令和3年の平均、平成29～令和元年「えみまる」「ほしまる」「大地の星」、令和2,3年「えみまる」「大地の星」のデータを基に作成。()はデータ数が不足するため参考値。苗立本数は6月15日前後、初期茎数は7月15日前後の調査。



写真1 【湛水直播】ドローンは種時の土壌状態  
腰高からは種床にゴルフボールを落下させた  
(撮影：5月15日 長沼町)



写真2 【湛水直播】ドローンは種の苗立ち状況  
格子状(縦横)には種しは種ムラを解消  
(撮影：6月23日 妹背牛町)



写真3 【乾田直播】パワーハローによるは種床づくり  
1工程で碎土・均平・鎮圧が可能となる  
(撮影：5月2日 長沼町)



写真4 【乾田直播】ドリルシーダーによるは種作業  
(撮影：5月2日 長沼町)



写真5 【乾田直播】コンビネーションドリル  
による効率的作業  
パワーハローとの組み合わせで碎  
土・は種など同時作業が可能  
(撮影：5月8日 長沼町)



写真6 【乾田直播】立毛の状況  
(撮影：8月21日 岩見沢市)